

埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

<インタビュー> 葉祥明氏へのインタビュー（1）：
霊性（スピリチュアリティ）をめぐって

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-11 キーワード (Ja): キーワード (En): YOH Shomei, spirituality, picture book 作成者: 三浦, 正雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/1195

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



インタビュー

葉 祥明氏へのインタビュー（1）

— 霊性（スピリチュアリティ）をめぐって —

Interview with Shomei Yoh (1)

About Spirituality

○質問 三 浦 正 雄

MIURA, Masao

☆回答 葉 祥 明 氏

YOH, Shomei

○ このたびは、インタビューをご快諾くださり、ありがとうございました。

☆ 質問内容を事前に見ました。キース・ジャレットのインタビューで日本人の方がすごく深い質問をしています、これもすごく深い質問になっていると思います。

○ ありがとうございます。それでは、事前にお送りした質問内容にしたがって進めたい、と思います。それでは最初の質問です。

Q①葉先生の作品を考えるうえで、私は、5つの柱があると考えております。「平和」「環境」「癒し」「智慧」「霊性」という5つの柱です。

なかでも、この5つの柱を統括するもっとも重要なキーワードは「霊性」であると考えておりますが、先生のお考えはいかがでしょう。

☆ 作品を考えるうえで、まず第一に重んじるのは美しいかどうかです。絵画ですからね。心に優しくしみいるかどうか、心地よい、「カンフォタブル」²⁾かどうかということ、「ビューティフル」であるかどうかということが大事なんです。

そして、一番奥深いところにあるのが「スピリチュアリティ」（霊性）、この世において物事はいろいろな層をなしていますから、テーマに応じて、それを表現しているわけです。「平和」「環境」「癒し」「智慧」は重要ですけど、それもこれも究極は一つです。スピリチュアリティが根底にあるのです。どの部分をどのように見せるかだけど、霊性こそが全ての一番奥、その高次元の世界がこの物質世界に表現されたものが「芸術」すなわち「美」（カンフォタブル、ビューティフル）という形ですね。

○ それでは、次の質問にまいります。「絵本」と「文学」の位置づけについてです。

Q②先生は「絵本文学」という言葉が使われていません。今までになかった言葉ですが、これについてお伺い致します。

☆ 「絵本文学」ね。

○ 私も、「怪談文学」「霊性文学」なんて言葉を使いますが（笑）。「絵本文学」というのも、新しい言葉ですよ。

キーワード：葉祥明、霊性、絵本

Key words : YOH Shomei, spirituality, picture book

☆ いわゆる「文学」は、文字が中心でしょう。絵は、それに付随した挿絵という形ですよ。ところが、絵本には絵が欠かせないので、絵が主人公で文は極力少なく、それによって文学性を表現しています。「ライトノベル」³⁾ っていう言葉があるでしょう。「漫画」のことと以前にはいわれていましたが、「漫画」は結構、物語性があるから文学と呼んでもいいということかな。漫画的な表現が「ライト」だから、「ライトノベル」っていうんだよね。新しい文学のカテゴリーとして、「ライトノベル」「漫画」にも文学性がある、そういう意味で「絵本文学」と言ったんでしょうね。

小説を書く人を作家といいます、作家というのは、物事を深く考える思想家ですよ。だから作家と呼ばれるならば、考え方なり生き方なりに深いものがなくちゃいけないよね。それは哲学といっても良い。とにかく作家というなら、しっかりした考えが作品には反映するようにしなくちゃね。

そういう意味では、深い思想のある作品こそが、文学と言える。

○ 文字中心のいわゆる「文学」が、あまりに活気がなくなってしまったので、そういうところで、「絵本」や「ライトノベル」「漫画」などの元気な「サブカルチャー」⁴⁾ もまた、「文学」と呼んでも良いのではないかということですよ。現在では、そちらの方が、パワーがありますよね。

☆ ビジュアルアート（視覚芸術）というのは、見ればわかることだから、わかりやすい。しかし、それだけに難しいところがある。何千年何万年もの歴史がある「絵画」は、現代では大きな壁にぶつかっている。「絵画」は芸術の王者ではなくなっているので、僕としては、とても残念です。

○ 一方で、現在の日本のものなどは特に、文字のいわゆる「文学」にも深みの無いものが多いですからね。かといって、「サブカルチャー」でも、深くないものはもちろんダメですよ。おっしゃる通りだと思います。

☆ 三浦さんの質問の奥にある「靈性」「スピリチュアリティ」とは何かを、定義するというか考えないといけませんよね。そうすると、僕はね、「スピリチュアリティ」「靈性」というと、「生命」っていう言葉を連想するんですよ。「生命」って何だといえば、生きている動いている変化している「純粋なエネルギー」みたいなものですね。『スターウォーズ』⁵⁾ 的に言えばフォース、理力。宇宙を宇宙たらしめている「力」のことです。ダース・ベイダーもいるし、ヨーダもいるし、ってなもんですけど。

「生命」がなければ、物質は単なる物体だよ。物質に「生命」が宿って、やっと動き出す。意志をもって、方向性をもって変化する。いろいろな言い方ができますよね。宗教的に言っちゃってるけど、「靈性」って、実は「究極の純粋なエネルギー」のことかなって、僕は思っているんですよ。

○ 次の質問は、「智慧」と「靈性」についてです。

Q③さまざまな作品から、先生は、古今東西の叡智を学ばれていると拝察いたしますが、もっとも強い影響を受けたと思われる人物を何人かご教示ください。哲学者、思想家、宗教家、神秘主義者、科学者、他、ジャンルは限定いたしません。

☆ 僕が影響を受けたのは、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー⁶⁾、ジャン＝ジャック・ルソー⁷⁾、それからエドガー・ケイシー⁸⁾、シルバー・パーチ⁹⁾、神智学¹⁰⁾。その他、様々なチャネリング¹¹⁾ 本や映画にはとりわけ影響を受けてますよ。『2001年宇宙の旅』¹²⁾ とか。

○ 神智学というと、ブラヴァツキー¹³⁾ が有名ですね。

☆ そうです。そして、多くの神智学徒がいます。そもそも、僕は、誰かに帰依するとか影響を受けるとかはないんですよ。その人の言っていること、考えたことに共鳴したり共感したりすることはあってもね。

それでも、人物として僕が目じたのは、キー

ス・ジャレットもそうだし、ブライアン・イーノ¹⁴⁾もそう、アインシュタインもそうだし、和尚¹⁵⁾っていう人もそう。

○ ラジニーシですね。

☆ そして、マザー・テレサとか、お釈迦様やイエス・キリスト、古今東西のメタヒューマン¹⁶⁾とでもいうべき人たち。普通の人間、人類をより高い次元で表現した人たち。そういう人たちは、人類全体の進化のモデルみたいな人たちだね。

他にもいっぱいいますよ。特にサイエンスの人たち。ガリレオやケプラーも。ニュートンだって。アルキメデスだって。その時代の普通の人たちの中で、こんなことを考えてたのかという人たちがいるのね。それが、いろいろな原理やら法則やらを世に出してる。数学の世界にもいるし。芸術の世界にもあまたいるよね。

過去の人たちだけじゃない。現代にもいるよね。でも、時代を経て評価されないと、現代人の目にはわかりづらいので、要注意だね。

○ こちらの美術館の近くの松ヶ岡文庫を創立した鈴木大拙¹⁷⁾については、いかがですか。

☆ まあ、人ではなく言葉に共感するわけですから。彼の禅の思想はよく読みました。

○ 鈴木大拙は、スウェーデンボルグ¹⁸⁾を訳したりとかもしてますよね。

☆ 宗教的な表れが多いんだけど、ルネッサンスの15世紀、そして一番特筆すべきなのは19世紀だね。19世紀のスピリチュアリズム¹⁹⁾。世界中でそういう人物が続々と出てくるような時期ですね。

○ 心霊学と神智学も、19世紀のほぼ同じ時期に出てきましたね。

☆ 19世紀はそんな時代。20世紀になってからは、ニューエイジ・ムーヴメント²⁰⁾がありました。

○ そして、ニュー・サイエンス²¹⁾が登場して、日本でも精神世界ムーヴメント²²⁾がきて。

☆ そうですね。過去には、思想や哲学が宗教的な装いをしていたんですね。でも、今はそういう宗教的な装いや教義という形ではない方が、良いと思いますね。そういうことでいうと、詩や音楽や絵画のような芸術表現は安全だし、見ればわかるし、味わいがある。

○ 霊性というのは、全ての文化・思想・哲学に通じているということですね。

☆ 源泉だね。とりわけ人間存在の核心だ。

注

1) キース・ジャレット…1945年-。アメリカのジャズ・ピアニスト。即興演奏によるジャンルを超えた音楽を、ピアノを中心に多彩な楽器を操って表現する。

2) カンフォタブル…comfortable。快適なさま。

3) ライトノベル…若者を対象とした娯楽小説。

4) サブカルチャー…支配的な文化に対する独自性の高い文化。主流文化に対する下位文化。

5) 『スター・ウォーズ』…1977年-。アメリカ映画。ジョージ・ルーカスが構想し、幾つかの作品の監督も務めたSFスペースオペラシリーズ。フォースは銀河のエネルギー。ダース・ベイダーやヨーダは、その登場人物。

6) ヘンリー・デヴィッド・ソロー…1817-1862年、アメリカの作家。自然の中での生活を描いた。代表作は、『ウォールデン 森の生活』。

7) ジャン=ジャック・ルソー…1712-1778年。フランスの哲学者。人民主権論を説く。代表作は、『社会契約論』『エミール』他。

8) エドガー・ケイシー…1877-1945年。アメリカの予言者。神智学の影響を受け、ニューエイジに影響を与えた。催眠状態で相談に答えるリーディングを行った。

9) シルバー・バーチ…イギリスの編集者モーリス・バーバネル(1902-1981年)に憑依して語ったとされるアメリカ・インディアン²⁰⁾の霊。書籍に『シルバーバーチの霊訓』がある。

10) 神智学…秘教哲学・神秘主義思想の体系をさす

が、代表的なのは、ブラヴァツキーとオルコット（1832-1907年）によって創設された神智学協会（1875年-）である。

- 11) チャネリング…霊や神仏、宇宙人などの物質科学の領域を超えた存在と催眠状態でコンタクトするといわれる方法。ニューエイジ・ムーヴメントにより一般化した。
- 12) 『2001年宇宙の旅』…1968年。英米合作映画。スタンリー・キューブリック監督・脚本、アーサー・C・クラーク脚本のSF映画。当時、来るべき宇宙探索時代における地球外生命体との接触を、極めて斬新な発想と映像で描いた作品。
- 13) ヘレナ・ペトロヴナ・ブラヴァツキー…1831-1891年。アメリカの神智学者。神智学協会の創設者の一人。代表作は、『シークレット・ドクトリン』
- 14) プライアン・イーノ…1948年-。イギリスの音楽家。ロックグループ「ロキシー・ミュージック」のメンバーとしてデビュー後、次第に前衛音楽やアンビエント（環境音楽）の影響を受けた作品を発表し、多くのミュージシャンに影響を与えた。
- 15) 和尚…バグワン・シュリ・ラジニーシ（1931-1990年）の別名。インドの宗教家。思想家。古来からの瞑想に西洋的セラピーも加えて、現代的な瞑想を創成した。
- 16) メタヒューマン…アメリカのコミックの映画化・ドラマ化された作品に登場する特別な能力を持った人物の総称。ここでは、特別な能力を持った人物の総称。
- 17) 鈴木大拙…1870-1966年。日本の仏教学者。禅の文化を世界に広めた。松が岡文庫は大拙の蔵書から生前、創設された文庫から発展した。代表作は、『日本的靈性』など。
- 18) エマーヌエル・スウェーデンボルグ…1668-1772年。スウェーデンの科学者・神秘主義者。臨死体験に近似した霊界体験で有名。代表作は、『天界と地獄』など。
- 19) スピリチュアリズム…死後も霊魂は存在し、死者の霊と交信できるとする思想。19世紀中期にアメリカで始まった。以後、現代まで続いている。
- 20) ニューエイジ・ムーヴメント…20世紀後半に登場した神秘主義の流れを引く思想の潮流。TM瞑想の創始者マハリシ、女優シャーリー・マクレーンの神秘体験などが有名。
- 21) ニュー・サイエンス…1970年代にアメリカで起こった文化運動。物質主義や要素還元主義に基づく西欧科学を批判し、東洋思想との類似性を説く有機的全体論を主張した。
- 22) 精神世界ムーヴメント…ニューエイジを核とし

て日本の霊学などもふくんだ文化で、一時衰退するも、スピリチュアルブームにより2000年代に再度隆盛した。

注記) 本稿は、2018年7月14日（土）に北鎌倉にある葉祥明美術館にて、葉祥明氏にお会いして、直接インタビューしたメモを活字におこし、読みやすい形にするため若干の編集を加えたものである。